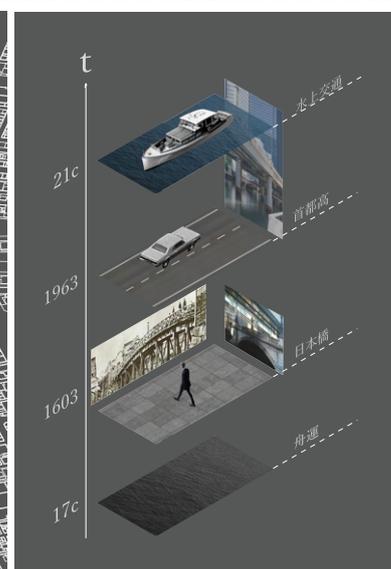


学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2024年	
受賞タイトル	優秀賞	
区分	IV. 都市ディスプレイデザイン	
フリガナ	ナカヤマ コウスケ	
制作者名	中山 昂祐	
フリガナ	トウキョウデンキダイガク ミライカガクブ ケンチクガクカ	
卒業時の大学 学部・学科	東京電機大学 未来科学部 建築学科	
フリガナ	ヒノ マサシ	職名
推薦者名	日野雅司	准教授
フリガナ	トウキョウ レジデュー	
作品名	Tokyo Residue	
概要	<p>Nihonbashi 船のターミナル</p>  <p>Tokyo Residue 首都高の断片的保存による風景と水辺の継承</p>  <p>Tokiwabashi メディアセンター</p> <p>日々変化が絶え間なく続く東京の街並み。近年の街の変化の仕方には、その場の特性を欠くような移ろいに見えていた。そのような中で東京「日本橋」では首都高の地下化による高架の撤去、それに加えて川沿いの再開発により日本橋の風景は劇的に変化しようとしている。風景と場を紡ぐため、消えゆく首都高を過去を紡ぐ装置と解釈して断片的の保存を行い、水上の交通・文化施設へと変換する。 モノを残しながら場が変化していくことこそ、街の記憶、行き交う人々の記憶を永く継承していくことになると信じている。</p>	

制作者名	中山 昂祐
作品名	Tokyo Residue

【コンセプト解説】



劇的に変化する街「日本橋」

日本橋では首都高の地下化により川の上の高架が撤去され、それに伴う川沿いの再開発事業が進んでいる。2035年前後には再開発は終了し、そこから首都高の撤去。2040年には約1.8kmの首都高の撤去が終了する予定である。

断片的保存が街の記憶を紡ぐ

2035年。首都高の地下化と周辺の再開発が終了し高架の撤去が始まるところから本計画は始まる。周りの再開発地点沿いに風景を紡ぐ場を選定し、2つの地点で高架を切断し建築操作を加える。新たな場に変換するための装置として再解釈することが日本橋の風景・場・記憶の紡ぎ方である。

将来の船の移動と首都高

都市の水辺空間を形成するプログラムとして利用の増加が見込まれる「船の交通」を軸に組み込み、水上のメディアセンターと船のターミナルを提案する。そして建築と土木が互いに補完し合うことで新しい空間が見えてくる。

